

応用統計学会 2021 年度年会のご案内

2021 年度応用統計学会年会を下記の要領で開催します。2020 年度はコロナウイルス拡大の影響で中止せざるを得ませんでした。2021 年度年会は感染状況を踏まえまして、全面オンラインで開催することになりました。一般講演の募集に加えて、ポスターセッションでの発表も広く募集します。また本年度から学生による一般講演においても表彰することになりました。会員のみなさまの積極的なご参加をお願い致します。

1. 日 時：2021 年 5 月 15 日（土）
2. 会 場：オンライン
3. 参加費：

本学会員	3,000 円
日本計量生物学会員	3,000 円
非会員	5,000 円
学生（会員・非会員とも）	1,000 円

※ 予稿集は、参加者に対して pdf にて後述の 2021 年度応用統計学会年会特設 HP より参加登録後ダウンロードできるようにする予定です。別途費用がかかりますが、紙媒体の予稿集が必要な場合には申し込み時にお申し出ください。

4. 特別講演：

- ① 矢島美寛（東北大学）「時空間統計解析の現状と将来への展望」
- ② 瀬谷創（神戸大学）「不動産賃料予測を例にした空間統計と機械学習の比較分析」

5. 一般講演・ポスター発表の募集

(1) 申し込み方法：

2021 年度応用統計学会年会特設 HP (<https://applstat.ywstat.jp/>) よりお申込みください。また、発表申し込み時に、一般講演またはポスター発表のどちらをご希望されるかお申し出ください。

なお、今年度よりポスター発表に加え、学生による一般講演においても表彰を行うこととなりました（下記ご参照ください）。各賞の詳細については別途応用統計学会 HP (<http://www.applstat.gr.jp/>) もご覧ください。

・優秀ポスター発表賞について

ポスターセッションでの講演は、**応用統計学会 優秀ポスター発表賞**の表彰対象となります。発表者が発表時に 35 歳以下で応用統計学会の会員であることが条件です。ただし、現在非会員であっても、発表当日までに入会手続きを済ませた方も対象となります。優秀ポスター発表賞へのエントリーを希望する方は、講演申込時にその旨選択してください。

・最優秀発表賞・優秀発表賞について

学生が登壇者となって行う一般講演（口頭発表）は、**応用統計学会 最優秀発表賞・優秀発表賞**の表彰対象となります。発表時に応用統計学会の学生会員または学生の身分を有する正会員であることが条件です。ただし、現在非会員であっても、発表当日までに入会手続きを済ませた方も対象となります。最優秀発表賞・優秀発表賞へのエントリーを希望する方は、講演申込時にその旨選択してください。

(2) 発表申し込み締切：2021年4月12日（月）

(3) 予稿原稿締切：2021年4月23日（金）

6. その他：

(1) 年会当日に応用統計学会総会をオンラインにて開催します。

(2) 同会場（オンライン）にて日本計量生物学会年会（5月13日（木）～14日（金））が予定されております。

(3) 5月14日（金）午後にチュートリアルセミナーを計画しています。詳しくは別紙を御参照ください。

※チュートリアルセミナーは日本計量生物学会との合同主催で実施され、年会は日本計量生物学会の後援で行われます。

チュートリアルセミナーのご案内

応用統計学会では、日本計量生物学会と合同でチュートリアルセミナーを企画しております。奮ってご参加ください（チュートリアルセミナー参加費は年会参加費とは別ですのでご注意ください）。また、最新の情報は応用統計学会年会特設 HP (<https://applstat.ywstat.jp/>) にてご案内します。

1. 日時：2021年5月14日（金）午後

2. 参加費：

本学会員	2,000 円
日本計量生物学会員	2,000 円
非会員	4,000 円
学生（会員・非会員とも）	1,000 円

3. テーマ：因果探索

オーガナイザー：清水昌平（滋賀大学データサイエンス学系，理化学研究所革新知能統合研究センター）

内容：機械学習と因果推論はそれぞれ盛んに研究され大きく発展してきている。さらに境界領域の研究や人的交流も活発になってきている。

例えば、機械学習を用いて因果推論における因果効果をより適切に推定したり、因果推論を用いて機械学習の予測精度や解釈可能性、公平性を向上させたりする研究が行われている。いずれの場合にも、はじめに変数の因果構造を特定しておく必要がある。因果探索は、変数の因果構造を表す因果グラフをデータから推測するための方法論である。因果探索は、Judea Pearl (2019, The seven tools of causal inference with reflections on machine learning, Communications of the ACM) においても7つ道具の1つとして紹介されている。本チュートリアルでは、因果探索のフレームワークや主な方法、適用事例について、3名の講師により解説を行う。特に線形性と非ガウス連続性を仮定する LiNGAM モデルとその拡張

(<https://sites.google.com/site/sshimizu06/lingam>) について解説する。

講師・内容（予定）：

清水昌平（滋賀大学データサイエンス学系，理化学研究所革新知能統合研究センター）

「因果探索の基礎（仮）」

前田高志ニコラス（理化学研究所革新知能統合研究センター）

「未観測共通原因が存在するときの因果グラフ推定」

井元佑介（京都大学高等研究院）

「LiNGAM モデルに基づく遺伝子制御ネットワーク推定」

申し込み方法：応用統計学会年会特設 HP (<https://applstat.ywstat.jp/>)
からお申込みいただけます。

4. 照会先：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町能楽書林ビル 5F
（財）統計情報研究開発センター内 応用統計学会事務局
e-mail：applstat@sinfonica.or.jp, FAX：03-3234-7868